

PREX NOW



途上国と関西をつなぐ VOL.261 特集:コロナに負けない



コロナに
負けない。



Don't Lose to Covid-19



研修事業の見学・講義にご協力
いただいている日本の企業支援
機関や経営者、研修員に、このコロナ
禍で様々な困難を強いられる中、
現在チカラを入れている取り組み、
強みをお話いただきました。





こんにちは！
八尾市経済環境部産業政策課の松尾 泰貴です。

自分が新しいことをやろうと思ったときに、誰か応援してくれそうな人に話しますよね。カメラ好きな友だちがいたら、その人に撮影の方法をきいてみたり…。でも仕事になると、聞ける相手は限られてしまいます。そういうとき信頼できる人が集まる「コミュニティ」があったらどうでしょう。「あの会社、動画うまく作っているから、動画の撮影の仕方とか聞いてみようか」となりますよね。意外とお金をかけずに、自力でやれることもあります。

まずは、お互いのことを知ることで、そして、刺激を受けて、「あの人の会社が新しく挑戦しているように、うちもやってみたい」とか、「うちも、やっぱり、どうしても、新しいものを作りたい」とか思うようになること、そうしたことがどんどんつながっていくと「挑戦」ばっかりになりますよね。その「挑戦」をさらにシェアする。「みせるばやお」はそういう場所です。
(↓下へ続く)

コロナでもイノベーションを止めさせない。 中小企業の井戸端会議「みせるばやお」

「井戸端会議」で、僕たちは知識を得ます。誰かが困っていることとか、うわさとか、会社の方針とか、地域の話とか。「みせるばやお」はその企業版です。この「井戸端会議」からは、信頼関係、アイデア、商品が生まれています。僕ら行政は、それを支援しています。一過性で終わってしまうプロジェクトではなく、コミュニティづくりを根っこからしっかりしていかないと、「持続可能」にはならないと思っています。「熱い人」をどんどん集めて、その人たちの「思い、熱量」も伝達しながら、コミュニティがどんどん大きくなっていくのが「持続可能」のイメージです。

コミュニティから、コラボ商品や企画が生まれてくると、「みせるばやお」に関わるみんなが「すごい」となります。どこかの一企業が、すごいというのではなくて、個性ある会社がぼこぼこあって、その人たちのカラーがでる方がいいと思っています。主役がどんどん変わっていくのが理想です。皆さん、ぜひ一度「みせるばやお」をご覧ください。

<https://www.facebook.com/miserubayao/>

松尾氏のロングインタビューはこちら →



*八尾市経済環境部産業政策課 松尾 泰貴氏
2008年、八尾市役所に入庁。2015～2016年に経済産業省 近畿経済産業局にてベンチャー政策に携わる。「地方公務員が本当にすごい!と思う地方公務員2019」受賞。



「みせるばやお」を訪問した各国の行政官



みせるばやおから生まれたコラボレーション商品。
香りをDIYできる手作りアロマスプレー。

2 八尾市の経営者は、「孤独」じゃない。



株式会社オーツー(八尾市)
代表取締役 梶原 弘隆 氏
業務用イス及びテーブルの製造・販売
従業員数 75名
「大阪ものづくり優良企業賞 2011」を受賞

オーツーの梶原 弘隆 です。

わたしたちは、業務用のイスやテーブルを受注生産で販売している会社です。コロナの期間中は、お客様との対面の営業活動もできませんし、情報収集の絶好の機会である展示会もほとんどが中止になってしまいました。

外とのつながり方を新しく考えていく中で、「みせるばやお」のイベントで、「オトナバヤオ」など、他の会社の経営者の方とお話したり動画配信をしていただいたりするチャンスができました。「みせるばやお」では、「困ったな。どうすればいいかな」というときに相談したり、アドバイスをもらえる仲間とのつながりができたことがとてもありがたいです。

「経営者は孤独だ」とよく言いますが、「経営者でもひとりじゃない」と感じられる機会になりました。

これからも新しいつながり、新しい形の接点を探して、もっともっと八尾市、そして八尾にあるオーツーのことを皆さまに知っていただきたいです。

梶原氏のロングインタビューはこちら →



新型コロナ感染拡大の影響は？

友安製作所の友安 啓則です。

新型コロナウイルスの感染拡大により業績に悪影響を受けた企業が8割に上るといわれています。その中で、弊社はほぼすべての事業において売上が伸びています。社員が、今できることを工夫してやり抜いて積極的に動いてくれているからです。

友安製作所Caféでは、来店したお客さんが感染防止対策にしっかり取り組んでいることの評価をSNSで広げてくれたこともありがたかったです。

実際にみせるばやおに参加している企業との新企画も進んでおり、ありがたい存在です。「みせるばやお」にはモチベーションが高く、何か新しいことをやりたいと思っている企業が集まっているため、コラボレーションをするにもスピード感を持って進められることも良い点だと思えます。

友安氏のロングインタビュー
はこちら →



3



株式会社友安製作所(八尾市)
代表取締役社長 友安 啓則 氏
カーテンフック・ハンガーフックなどの線材加工品
従業員数 86名
「令和元年度 新・ダイバーシティ経営企業100選」受賞

4

第二波でも、 止まってなんかいられない。

●ミャンマーのドミニックさん

ミャンマー日本センタービジネスコンテスト優勝者
Amico Company Limited 代表

9月に入り、ミャンマーにおけるコロナウイルスは第二波の真っただ中で、2つの州で特に感染が拡大しています。経済状況は厳しいですが、中小企業に対してコロナローンもあり、私も申請手続き中のため銀行と根気強く交渉中です。

私は、コンニャク芋チップスとミスン牛製品を製造しています。現在、一番の輸出先である中国市場の混乱もあり、コンニャクチップの製造を停止していますが、止まってはいられません。この期間にミャンマー日本センターの仲間たちと話しながらビジネス戦略を練り続けています。次は長期保存できるコンニャク芋やひえの粉末等、付加価値のある食品加工に力を入れていきたい、そのための技術を探しています。日本企業の皆様とパートナーシップを結べたら幸いです。(2020年9月)

*2019年度「関経連アセアン経営研修」に参加



母国で コロナに 立ち向かう 帰国研修員 の皆さん。

6



モルドバのドゥミさん(左)



5

状況は一変した。

●コロンビアのディビッドさん

首都ボゴタの商工会議所のビジネス強化部門の部長

コロンビアにおける新型コロナウイルスの影響は大変深刻で、累計感染者数は世界第8位です。コロンビアでは5か月を超える強制自宅待機措置がとられ、自由な経済活動がままならない状況が続いています。GDP成長率は、前年度期比マイナス15.7%、また失業率は20%を超えています。

商工会議所の職員は、自宅から業務を行うというこれまでとは異なる状況の中、中小企業が破産しないようサポートを行っています。自宅待機措置の間は、子供たちと一緒にボードゲームをして遊んだり、ネットフリックスを見たり本を読んだり、料理をしたり、普段なかなかできなかったことをして過ごしました。

9月に入ってようやく自宅待機措置は解除され自由に行動できるようになっています。

新型コロナウイルスによって、私たちの生活は一変しました。企業も私たちも新しい生活様式を考えて、柔軟に対応していく必要があると考えています。(2020年9月)

*2019年度「JICA先進国市場を対象にした輸出振興/マーケティング戦略(A)」に参加

コロナ禍でも、成長を。

●モルドバのドウミさん 外務省・欧州統合の経済外交部門の職員

モルドバにおいても新型コロナウイルスの影響は大きく、人口300万人に対して、既に3万件に及ぶ感染者数が公表されています。政府による非常事態宣言も出され、多くの企業の利益減少は免れず、多くの商店は閉店を余儀なくされている状態です。これ以上の感染被害を拡大させないためにも、公共の場におけるマスクの着用が義務づけられています。

仕事の仕方これまでとは大きく異なり、スケジュールを調整してオフィス勤務の日、在宅勤務の日と分けており、同僚とのコミュニケーションは以前と比べて取りづらくなりました。経済と社会、それぞれが早く回復することを願っています。

JICA研修で学んだことを活かして、企業自身がうまく潜在能力を発揮できるよう、また、この状況下においても成長し続けられるように企業のサポートを行っていきたくと考えています。(2020年9月)

*2019年度「JICA先進国市場を対象にした輸出振興/マーケティング戦略(A)」に参加

日本も新型コロナウイルスの影響を大きく受けていますが、今回レポートを寄せてくれた研修員の母国も同じように、また日本以上に新型コロナウイルスの影響を大きく受けているということがわかりました。このような中でも帰国研修員の皆さんがそれぞれが工夫をして、仕事に取り組みされていることが伝わってきました。今後の活動もとても楽しみです。(国際交流部 狭間)

私が大切に している国。

今回は、前田智帆職員が
セネガルを紹介します。



こんにちは！PREXの前田です。

私にとってセネガルは、青年海外協力隊員として約三年を過ごした第二のふるさとです。

人当たりがよく、ポジティブ思考で土壇場に強い人々にいつも助けられました。

最初はコミュニケーションに苦労しましたが、現地語の1つ、「ウォロフ語」を習得することで、現地の人々の生活をより深く知ることができました。

「前田さんは人と心の距離が近いね」とPREXの先輩から言われることがありますが、すべてはセネガルでの経験からです。

セネガルは、日本と全く違う場所ではありません。国技が相撲、主食が米、海がある、本音と建て前、おもてなしを大事にする国民性、平和が誇り等、共通点も多いです。肩書に関係なくこの国に魅了され、何度となく再訪し、ビジネスを始められる方もいます。

日本とセネガルは外交上も親交が深い国です。身近なところで言うと、私が協力隊員として受け入れていただいたンドファン(Ndoffane)市のサンバンジャイ市長は、ヤマハ発動機株式会社やJICA専門家の方々と水産系プロジェクトに携わっており、昨年のTICAD(アフリカ開発会議)に参加された時も、「いつか日本の相撲を見たい」とおっしゃっていました。

日本で仕事や勉強にはげむセネガル人もおり、日本語ペラペラで、日本とセネガルを繋ぎたいと夢を語るだけでなく、行動する人も少なくありません。セネガルは私のエネルギーの源です。たくさんのことを学ばせてくれた人々に早く恩返しができるよう、仕事にも励みます。

セネガル以外のアフリカの国についても皆様を知っていただけるよう、PREXのウェブサイトでもアフリカ情報を紹介しています。アツと驚くものから、ほのぼのするものまで、様々な角度からアフリカを見ていただけるよう頑張りますので、ぜひご覧下さい。

アフリカコラムはこちら →





SDGsと私

今回は、「SDGs推進チーム座談会」から、メンバーがSDGsに関心を持ったきっかけや、現在関心があることを紹介します。

今年度から「PREX SDGs推進チーム」のリーダーの**狭間**です。

私は、カトリック系の小学校に通っていました。フィリピンに姉妹校があり、

自分たちのおこづかいでフィリピンの子ども一人分の1年間の学費が賄える ことを知りました。

自分は勉強しなくても学校にいけます。同じ年齢のフィリピンの子どもは、行きたくても学校にいけないのです。とても複雑な心境でした。

そのことが心にあり「教育」や貧困問題には、関心がありました。教育がしっかりしていないとその上に何も積み上がっていかないと思っています。

青年海外協力隊員として中米グアテマラで環境教育の分野で活動をしていたとき、子どもたちに「夢は何?」と尋ねました。日本の子どものように皆が皆、「お医者さん」とか「野球選手」といった答えを口にはしません。

「学校を卒業できないかもしれないし、自分の将来は決まっている」 と思っているようでした。

そんな子どもたちが、将来を描ける、なりたいと思う職業を選べる、そんな努力ができる世界が実現される、そうした活動にかかわりたいです。

兵頭です。出向元のダイキン工業株式会社でもSDGsに関しては「環境に配慮した商品やサービスの提供」というコンセプトがありました。

個人的には、**世界中の人が「教育」を受けられる世界に向かってどういう働きかけができるか** 考えてみたいと思っていました。

阿部です。兵頭さんと同じく、SDGsの17つの目標の中で、「教育」が一番大切だと思っています。子どもたちが自分の未来は輝いているという希望が持てる社会でないといけません。出向元のサントリーホールディングス株式会社で「利益は事業を発展させるためにある+地域への貢献」という考え方があります。私自身、「サントリー次世代研究所」に在籍していたこともあり、

「次世代」は意識しているワードです。

奥村です。小さい頃からジブリ映画を見て育ちました。なぜ人が争うのか、どうやったら自然を大切にできるのか、私が考え続けている原点はそこにあると思います。高校3年生の時に起きた「9.11(アメリカ同時多発テロ事件)」も進路選択に影響を与えました。そして、ゼミの先生から聞いた

戦争や紛争の背景に貧困があるという事実。

平和な世界を維持・実現するために何か貢献できたらという想いがあります。PREXにも「SDGs推進チーム」ができ、そのメンバーになることができ嬉しく思っています。



狭間



兵頭



阿部



奥村

読者の皆さんは、SDGs推進チームメンバーのコメントについて、どんな感想を持たれたでしょうか？メンバーへの質問やSDGsに関して聞いてみたいことなどぜひお寄せください。座談会の続きはこちら→



NEWS & TOPICS

今号は、企業や研修員の皆さんが、コロナ禍でも知恵を出して、自分たちがやりたいことを広げている様子をお届けしました。
読者の皆さまの「コロナに負けない」ヒントになれば幸いです。
次号は「関西の国際化を支えるダイバーシティ」特集です。在日留学生や日本で働く外国人の方々が働きやすい環境づくりのご経験や、ご意見をぜひお聞かせください。
お待ちしております。 E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

ベトナム人リーダー育成研修2020が終了!

実際に働いていても理解しにくい、経営理念、カイゼン、チームワークなど日本企業の経営の根底にある考え方について、講義と現場訪問を通して学びリーダー育成研修。
10月に10日間のプログラムを実施し、日本企業に勤務する管理者候補のベトナム人社員4名が参加しました。
今年度、第1号の「リアル」研修となりマスク、フェースシールド、ビニールの仕切り、検温・消毒など、会場でのコロナ対策も行いながら、皆さん熱心に学んでいただきました。



株式会社山田製作所にて改善の取り組み事例を学んだ。

PREX職員全員が「MY SDGs宣言」

「PREXビジョン2030」を受け、職員一人一人が日常生活から取り組む「MY SDGs宣言」です。

詳細はこちら→



【参加者募集中】サクヤヒメ 国際女性会議 瀬戸口がコーディネーターとして参加します。

1/21午後6時半から8時半、ドーンセンター7階ホールにて、大阪サクヤヒメSDGs研究会、大阪商工会議所の主催「第2回大阪サクヤヒメ国際女性会議〈自由な発想で国際社会にインパクトを〜SDGsでチャンスをつかむ〜〉」が開催されます。

基調講演に大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー(「いのちを高める」)も務める中島さち子氏、事例紹介は株式会社マザーハウスの王宏平氏、千島土地株式会社の木坂葵氏と、いずれも領域を超えた自由な発想で国際社会にインパクトを与えている講師が登場します。

PREXは協賛するとともに、ディスカッションのコーディネーターを瀬戸口恵美子が担当します。

ドーンセンターでのご参加とともに、オンラインでのご参加も募集中です。

詳細・お申し込みはこちら→



上本町SDGs大学、今年度の開催テーマが決定しました!

PREXの地元「大阪上本町」地域を舞台に、地域から発信し、SDGsについて自分たちの言葉で語り合い、学びあう場として、2019年3月からスタートした「上本町SDGs大学」。今年度は次の3回を実施します。

第5回 10/23(金)

「エシカルとビジネスとわたしたち」

株式会社 福市 代表取締役社長
高津 玉枝 氏
(終了しました)

第6回 12/16日(水)

「SDGs×性の多様性」

特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ理事長
村木 真紀 氏



第7回 2月上旬
「SDGs×環境」

一般社団法人アースカンパニー
プログラマネージャー
藤本 亜子 氏



(クレオ大阪中央との連携事業)詳細はこちら→

JICAより「JICA-SDGs パートナー」に認定されました!

JICA(独立行政法人 国際協力機構)より、JICAとのパートナーシップのもと、途上国の持続的な開発目標(SDGs)に取り組んでいることを評価いただきました。(2020年8月26日付)



JICA-SDGs パートナー
認定書



公益財団法人 太平洋人材交流センター 様

貴団体は、独立行政法人 国際協力機構 (JICA) とのパートナーシップのもと、途上国の持続的な開発目標 (SDGs) に取り組んでおり、これを認定します。

認定期間 2020年8月26日 ~ 2021年3月31日 (実施中の研修員受入事業の契約更新後、本認定期間も同様に変更予定)

2020年8月26日
独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
副理事長/国内連携事業本部長 山田 順一

PREX NOW第261号(2020年11月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長:岡本 譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー